

# 2021年3月期 決算の概要



2021年5月25日  
福岡中央銀行



## 第11次中期経営計画の総括

---

第11次中期経営計画の成果	……	1
第11次中期経営計画以降の歩みと今後の取組み	……	2

## 2021年3月期 決算の概要

---

1. 損益の状況	……	3
2. 資金利益・貸出金利回り	……	4
3. 貸出金・預金	……	5
4. 有価証券	……	6
5. 役務取引等利益	……	7
6. 経費・与信関係費用	……	8
7. 金融再生法開示債権・自己資本比率	……	9
8. Topics1 新型コロナウイルス対応(資金繰り支援)	……	10
9. Topics2 非対面取引の充実	……	11

## 2022年3月期 業績予想

---

2022年3月期 業績予想	……	12
---------------	----	----

## 第12次中期経営計画の概要

---

第12次中期経営計画の概要	……	13
基本戦略と目標とする経営指標	……	14
参考 福岡経済の位置付けと現状	……	15



# 第11次中期経営計画の総括

# 第11次中期経営計画の成果

- 自己資本増強や組織・ガバナンス態勢面に関しては、長年の懸案事項の解決や将来に向けた布石など、評価すべき成果を上げることができました。
- 営業面に関しては、最終年度における新型コロナ関連融資への積極的な応需等により、結果的に業容は当初計画を大きく上回りましたが、「コア業務純益」については、低金利状態の継続等もあって計画比未達となりました。

※ F = Follow-up N = Not available

基本方針	施策	アクションプランのKPI評価			
		評価	内容	評価数	
地元中小企業のニーズに寄り添ったサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顧客本位の金融サービスの一段の進化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・業績査定の見直し</li> <li>・顧客管理体制の見直し</li> <li>・ビジネスサポート部の増員</li> </ul> </li> <li>■ 顧客ニーズに沿った取組み                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術の活用 (Big Advanceの取扱い、API連携、キャッシュレスの提供)</li> <li>・E S Gバランス型投資信託の発売</li> </ul> </li> <li>■ 新型コロナ対応融資の提供</li> </ul>	A	目標達成期間に対する経過期間の割合以上に、KPIが目標達成に向けて進捗しているもの	21	
		B	AほどKPIが進捗していないもの	28	
		F	施策の実行自体がKPIとなっており、各期ごとに施策の実施状況を確認するもの	9	
		N	今後、データ等が得られるため現時点で評価困難なもの (今後、データ等が得られ次第評価を行うもの) 実施時期が未到来のもの	1	
		合計			59
営業基盤の拡大と生産性の向上による収益力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 営業力強化によるトップライン強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業性評価の推進</li> <li>・新規専担者の配置</li> </ul> </li> <li>■ ソリューション営業の推進</li> <li>■ 手数料率の改定</li> <li>■ 業務の効率化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・債権書類等本部集中化</li> <li>・BPRの推進 (報告書等の削減、本部集中化等)</li> </ul> </li> </ul>	数値目標			
		項目	2017年度実績	目標 (第11次中期経営計画)	2020年度実績
		融資量平残	3,645億円	3,850億円以上	4,159億円
		資金量平残	4,778億円	4,900億円以上	5,394億円
		コア業務純益 (除く投信解約損益)	1,273百万円	12億円	10億円
人の育成と適正な評価による活気ある組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人材育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・融資渉外の育成、支店長のマネジメント強化</li> </ul> </li> <li>■ 女性活躍推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性渉外、支店長への登用</li> </ul> </li> <li>■ 人事制度改革の推進</li> </ul>	自己資本比率	7.28%	7.0%以上	9.18%
		中小企業等向け貸出残高比率	92.19%	90%台	92.28%
コンプライアンスの遵守とガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 機関の変更                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・監査等委員会設置会社への移行</li> <li>・執行役員制度の導入</li> </ul> </li> <li>■ リスクベース監査への移行</li> </ul>				
<参考> 健全性向上システム移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 増資による自己資本比率の引上げ</li> <li>■ 新システムへの移行</li> </ul>				

# 第11次中期経営計画以降の歩みと今後の取組み

第11次中期経営計画 2018～2020

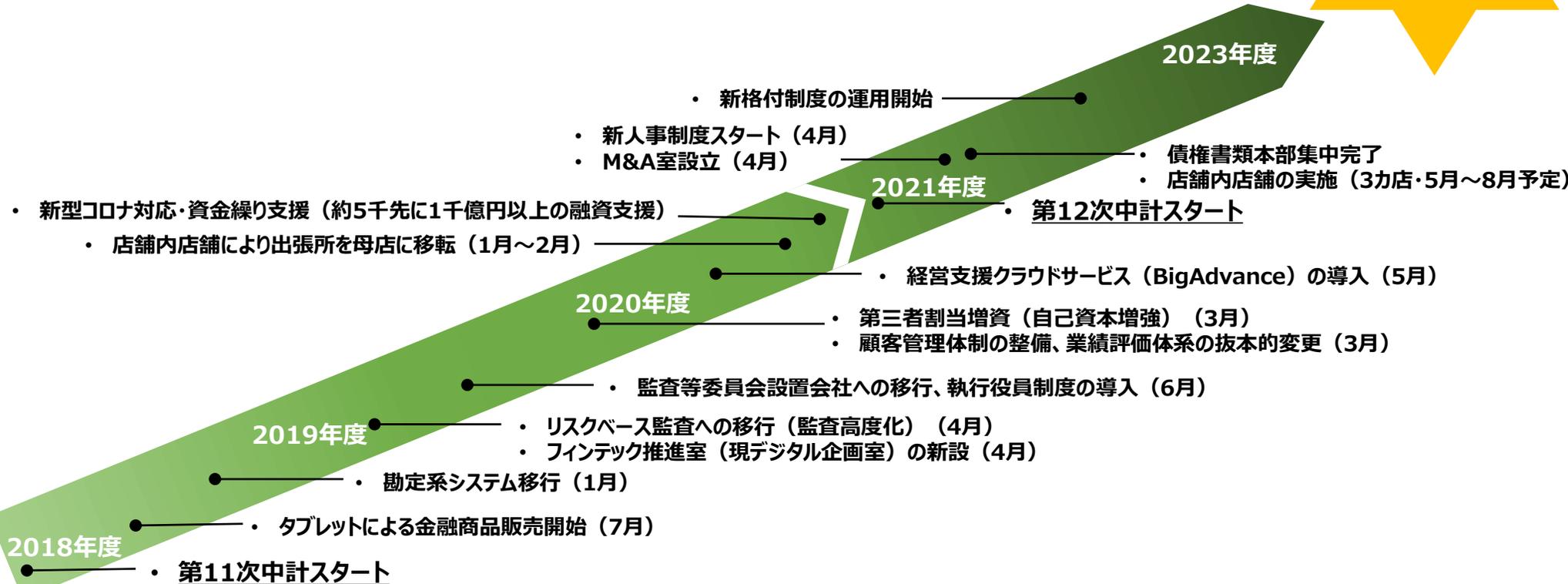
1. 地元中小企業に寄り添ったサービスの提供
2. 営業基盤の拡大と生産性の向上
3. 人材育成と活気ある組織作り
4. コンプライアンスの順守とガバナンスの強化

自己資本増強や組織・ガバナンス態勢面は評価すべき成果を上げた

第12次中期経営計画 2021～2023  
BEST!～ひとりひとりのベストを大きな力に～

- |  |   |
|--|---|
| <p>I 構造改革</p> <p>II チャンネル戦略</p> <p>III 人材・組織戦略</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業戦略</li> <li>2. 業務戦略</li> <li>3. 収益基盤の強化</li> <li>4. 店舗網の再構築</li> <li>5. 非対面チャネルの拡充</li> <li>6. 人材戦略</li> <li>7. 経営管理強化</li> </ol> |
|--|---|

《長期ビジョン》  
地域になくてはならない銀行





# 2021年3月期 決算の概要

# 1. 損益の状況

(百万円)

	2021年3月期	前期比		2020年3月期
		増減額	増減率(%)	
経常収益	9,377	▲ 95	▲ 1.0	9,472
業務粗利益	7,699	45	0.5	7,654
資金利益	7,596	34	0.4	7,562
うち貸出金利息	6,802	122	1.8	6,680
うち有価証券利息配当金	905	▲ 173	▲ 16.0	1,078
役員取引等利益	96	6	6.6	90
その他業務利益	6	4	200.0	2
<b>コア業務粗利益 ※1</b>	<b>7,694</b>	<b>40</b>	<b>0.5</b>	<b>7,654</b>
経費 (除く臨時処理分) (▲)	6,599	▲ 95	▲ 1.4	6,694
コア業務純益 ※2	1,094	134	13.9	960
<b>コア業務純益 (除く 投資信託解約損益)</b>	<b>1,103</b>	<b>240</b>	<b>27.8</b>	<b>863</b>
一般貸倒引当金繰入額 ① (▲)	310	310	—	—
業務純益	788	▲ 172	▲ 17.9	960
臨時損益	9	386	—	▲ 377
うち株式等損益	249	734	—	▲ 485
うち不良債権処理額 ② (▲)	53	▲ 183	▲ 77.5	236
うち貸倒引当金戻入益 ③	—	▲ 249	▲ 100.0	249
<b>経常利益</b>	<b>798</b>	<b>216</b>	<b>37.1</b>	<b>582</b>
特別損益	13	14	—	▲ 1
法人税等合計 (▲)	292	256	711.1	36
<b>当期純利益</b>	<b>519</b>	<b>▲ 25</b>	<b>▲ 4.5</b>	<b>544</b>
与信関係費用 (①+②-③) (▲)	364	376	—	▲ 12
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>9.18</b>	<b>0.94</b>		<b>8.24</b>

※1 コア業務粗利益 = 業務粗利益 - 国債等債券関係損益

※2 コア業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額 - 国債等債券関係損益

## 経常収益

9,377百万円 前期比 ▲ 95百万円

経常収益は、有価証券利息配当金の減少等により、前期に比べ9 5百万円減少して9 3億7 7百万円となりました。  
2年連続の減収です。

## コア業務粗利益

7,694百万円 前期比 + 40百万円

コア業務粗利益は、貸出金利息の増加および役員取引等費用の減少等により、前期比40百万円増加し7,694百万円となりました。

## コア業務純益

(除く 投資信託解約損益)

1,103百万円 前期比 + 240百万円

コア業務純益 (除く投信解約損益) は、前期比2 億4 0百万円増加して1 1億3百万円となりました。  
貸出金利息収入が前期比増加に転じたほか、経費が減少したことが主な要因です。

## 経常利益

798百万円 前期比 + 216百万円

経常利益は、与信関係費用が増加したものの有価証券の減損損失が大幅に減少したこと等により、前期に比べ2 億1 6百万円増加し7 億9 8百万円となりました。  
2 0 1 8年3月期以来の増益です。

## 当期純利益

519百万円 前期比 ▲ 25百万円

当期純利益は、経常利益が増益となったものの、法人税等の増加により、前期に比べ2 5百万円減少し5 億1 9百万円となりました。

2 0 1 9年3月期以来の減益です。

## 2. 資金利益・貸出金利回り

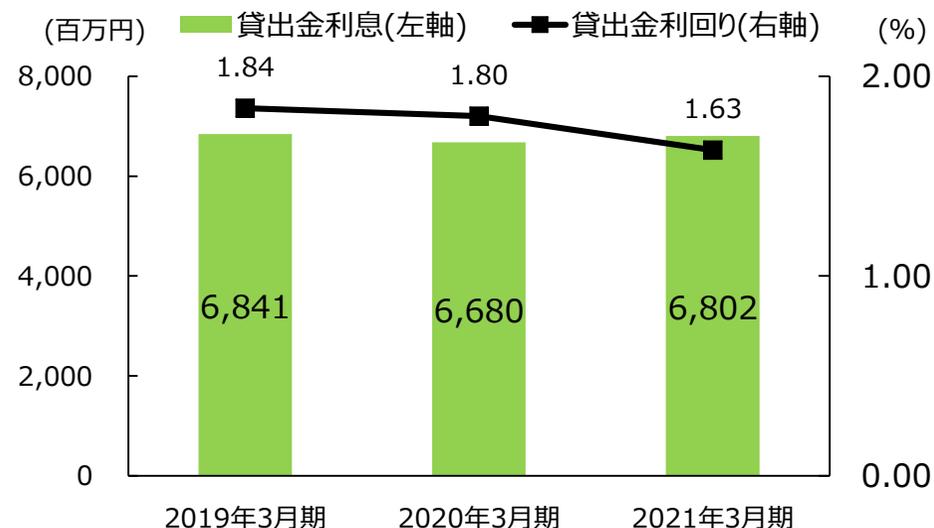
### 資金利益の推移

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期	
		前期比		前期比		前期比
資金利益	7,789	▲ 70	7,562	▲ 227	7,596	34
<b>貸出金利息</b>	<b>6,841</b>	<b>▲ 125</b>	<b>6,680</b>	<b>▲ 161</b>	<b>6,802</b>	<b>122</b>
貸出金平残(億円)	3,699	54	3,701	2	4,159	458
貸出金利回り(%)	1.84	▲ 0.07	1.80	▲ 0.04	1.63	▲ 0.17
<b>有価証券利息配当金</b>	<b>1,165</b>	<b>▲ 19</b>	<b>1,078</b>	<b>▲ 87</b>	<b>905</b>	<b>▲ 173</b>
有価証券利回り(%)	1.39	0.06	1.36	▲ 0.03	1.07	▲ 0.29
<b>預金利息(▲)</b>	<b>240</b>	<b>▲ 77</b>	<b>222</b>	<b>▲ 18</b>	<b>167</b>	<b>▲ 55</b>
預金平残(億円)	4,813	35	4,821	8	5,394	573
預金利回り(%)	0.04	▲ 0.02	0.04	▲ 0.00	0.03	▲ 0.01

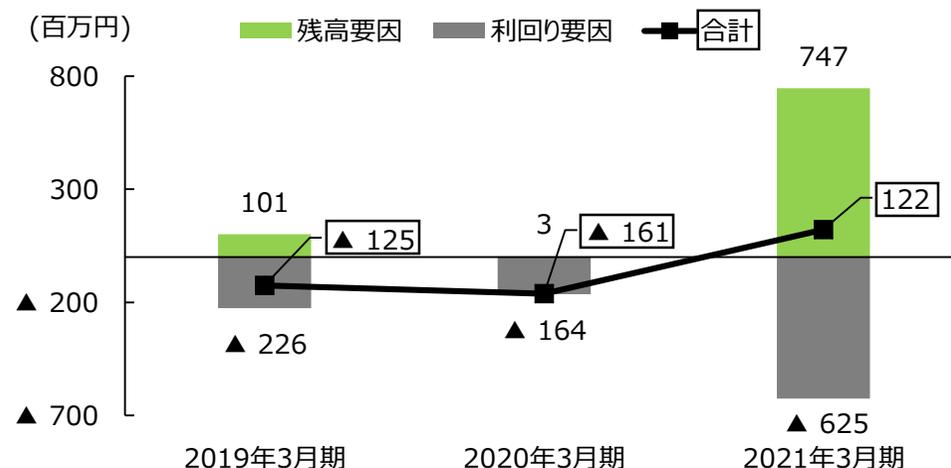
### 投資信託解約損益の推移

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期	
		前期比		前期比		前期比
投資信託解約損益	16	▲ 7	96	80	▲ 8	▲ 104
投資信託解約益	16	▲ 7	96	80	74	▲ 22
投資信託解約損(▲)	—	—	—	—	83	83

### 貸出金利息・貸出金利回りの推移

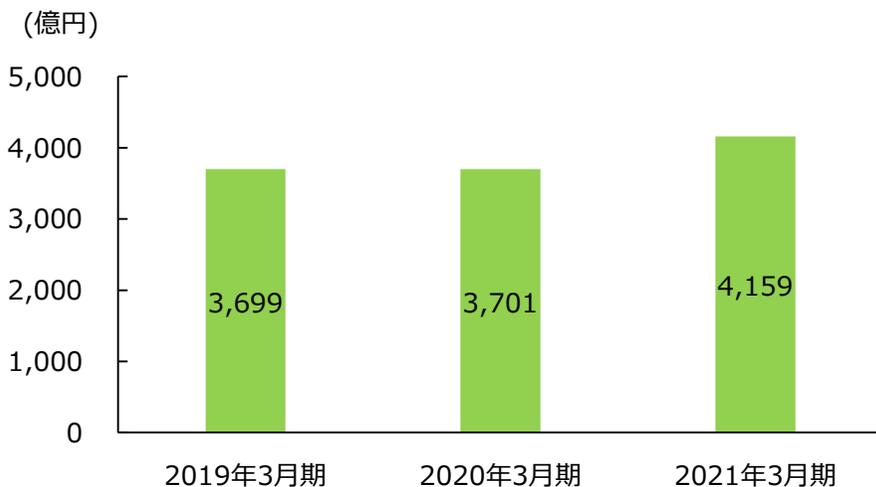


### 貸出金利息の増減要因 (前期比)

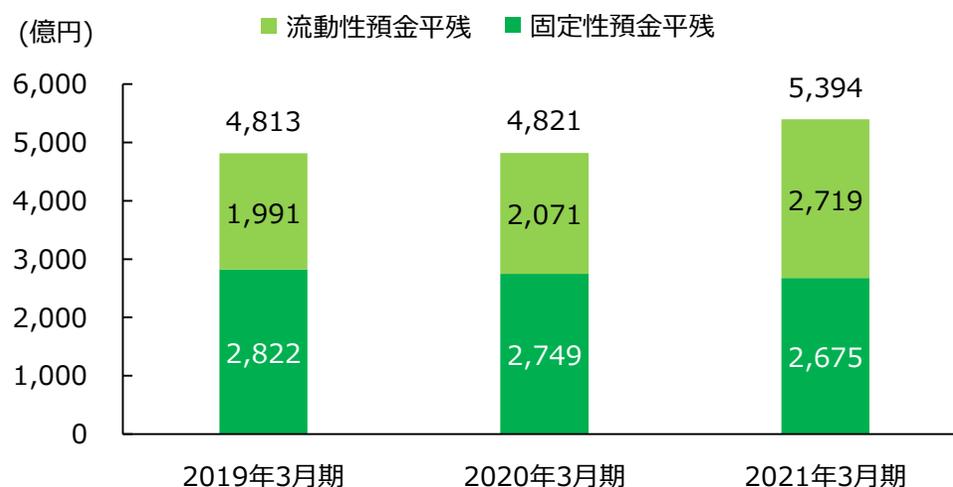


# 3.貸出金・預金

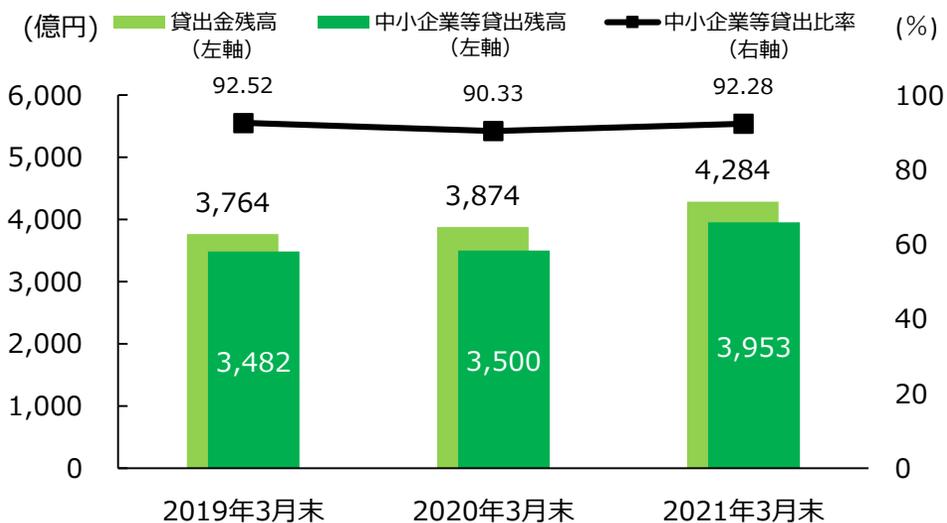
## 貸出金平残の推移



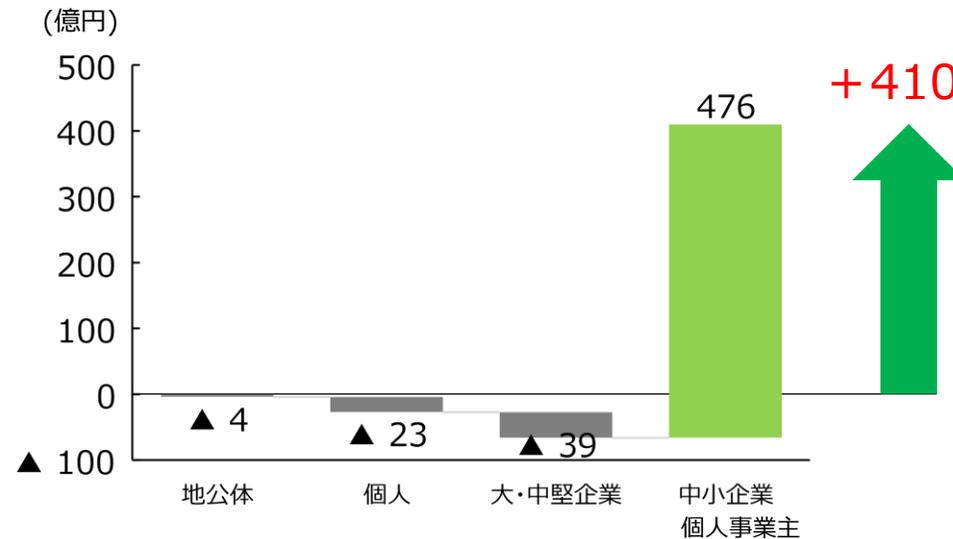
## 預金平残の推移



## 貸出金残高・中小企業等貸出残高の推移

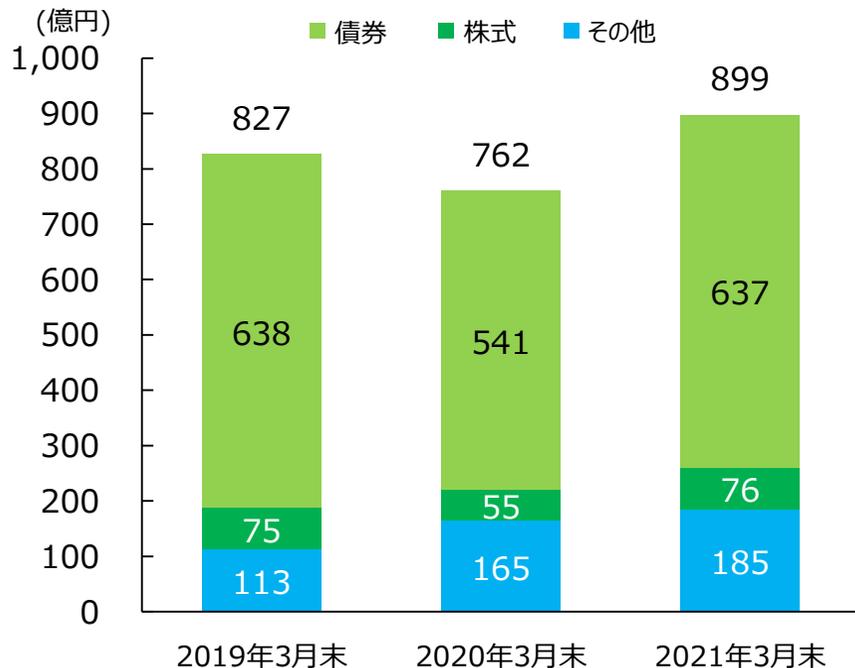


## 2021年3月末 貸出金残高の増減要因 (前期比)

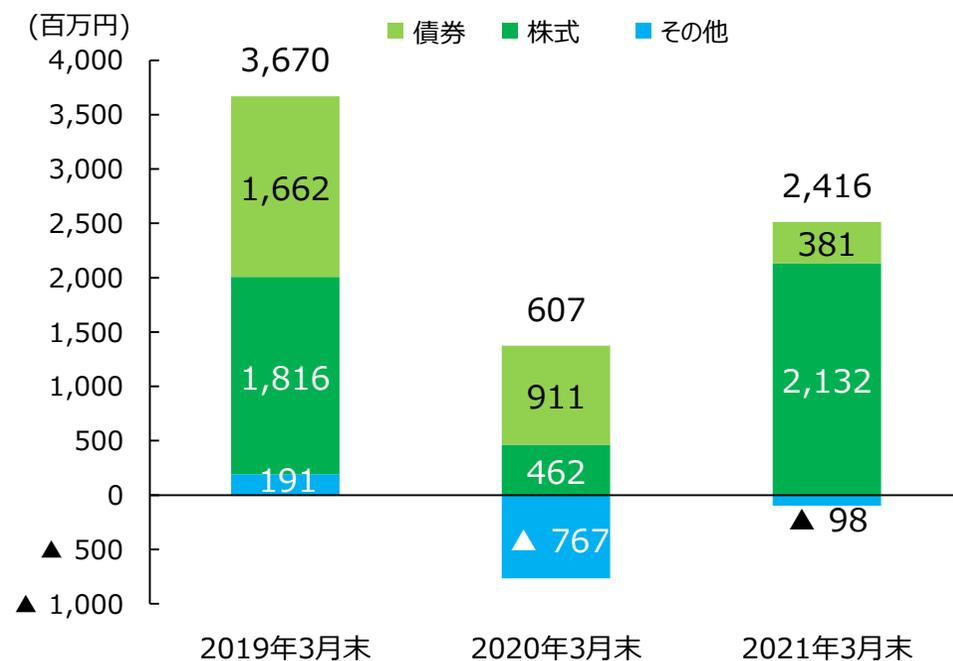


# 4. 有価証券

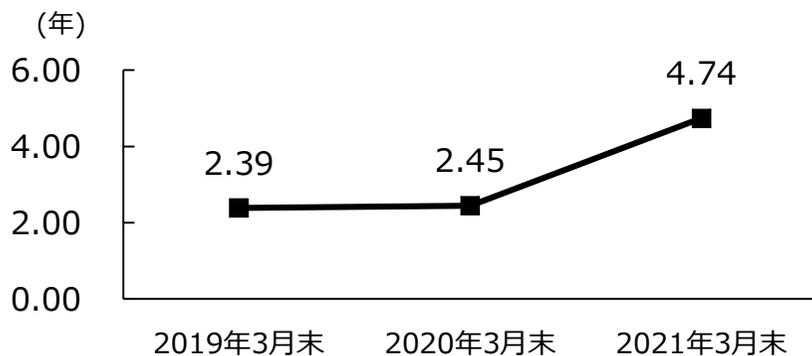
## 有価証券残高の推移



## 有価証券評価損益の推移



## 債券の平均残存期間の推移

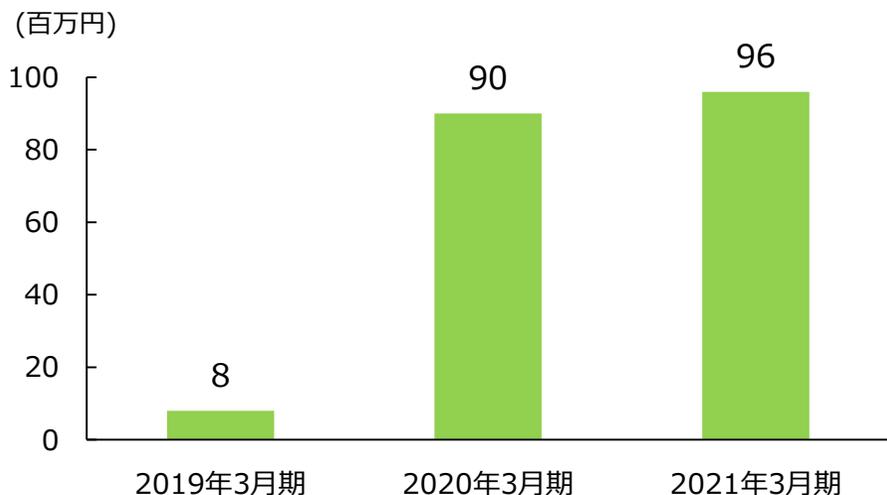


## 有価証券関係損益の状況

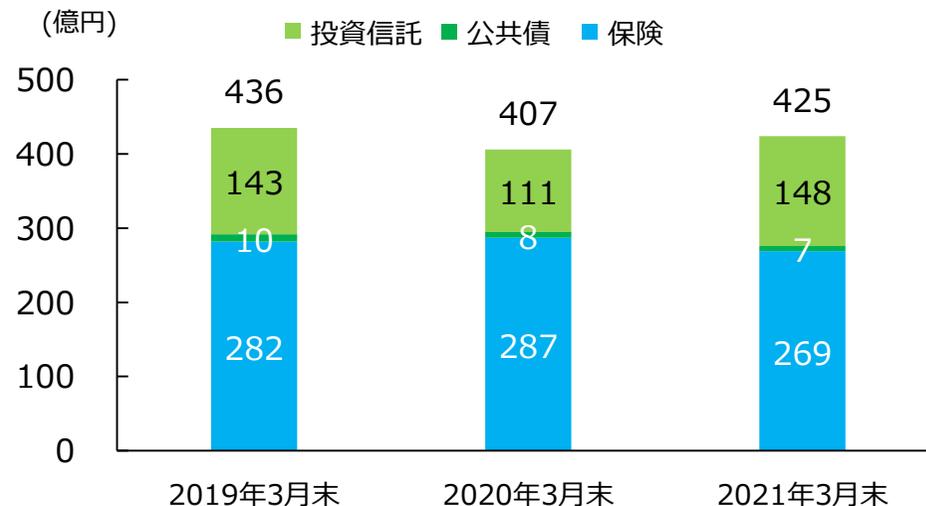
(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	前期比
有価証券利息配当金	1,078	905	▲ 173
うち投資信託解約損益	96	▲ 8	▲ 104
国債等債券関係損益	-	4	4
うち売却益	-	16	16
株式等関係損益	▲ 485	249	734
うち売却益	231	542	311

# 5. 役務取引等利益

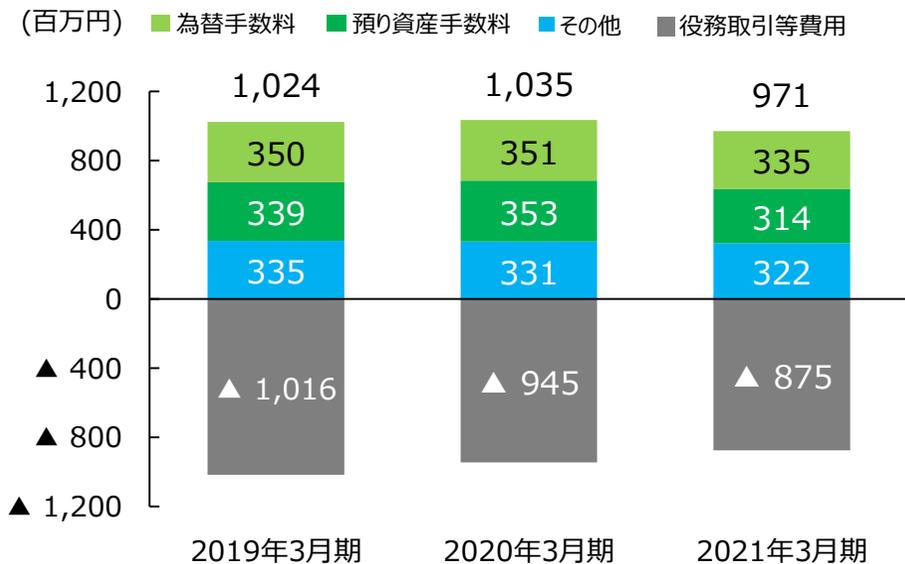
## 役務取引等利益の推移



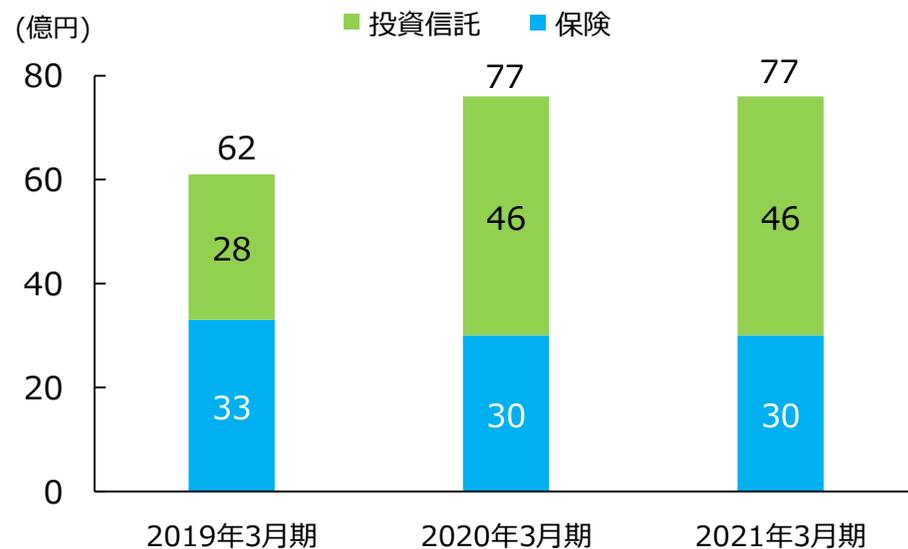
## 預り資産残高の推移



## 役務取引等収益・費用の推移



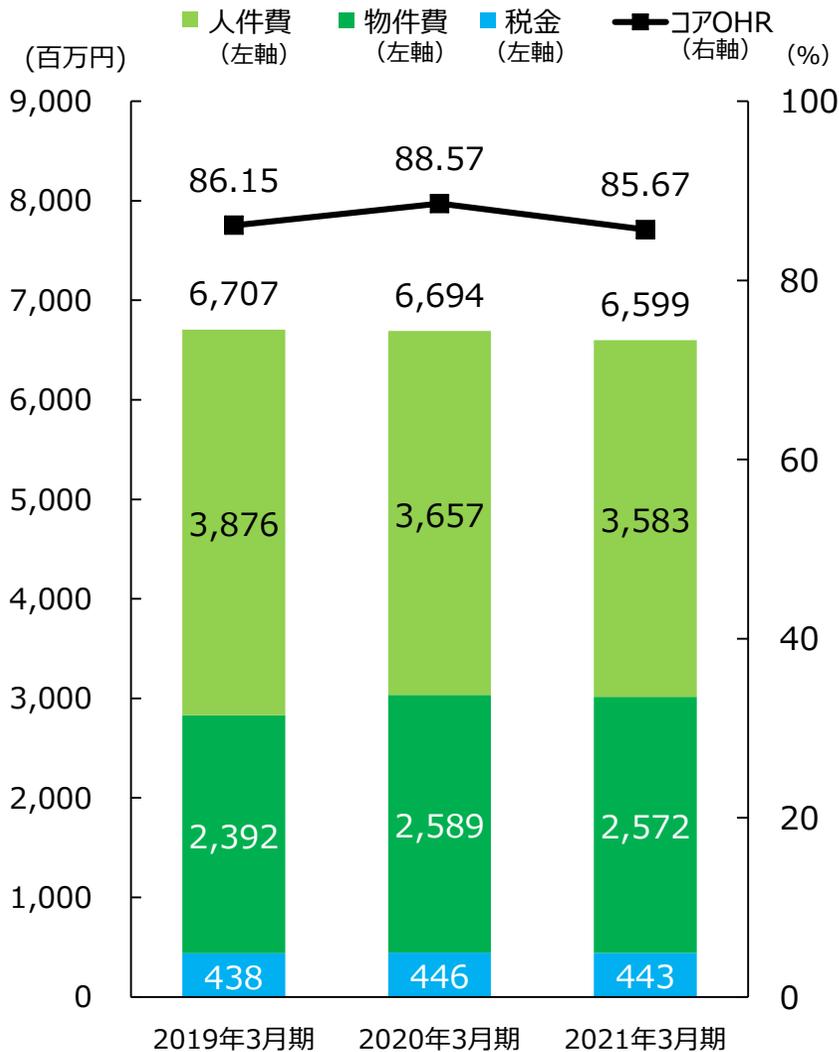
## 預り資産販売額の推移



# 6.経費・与信関係費用

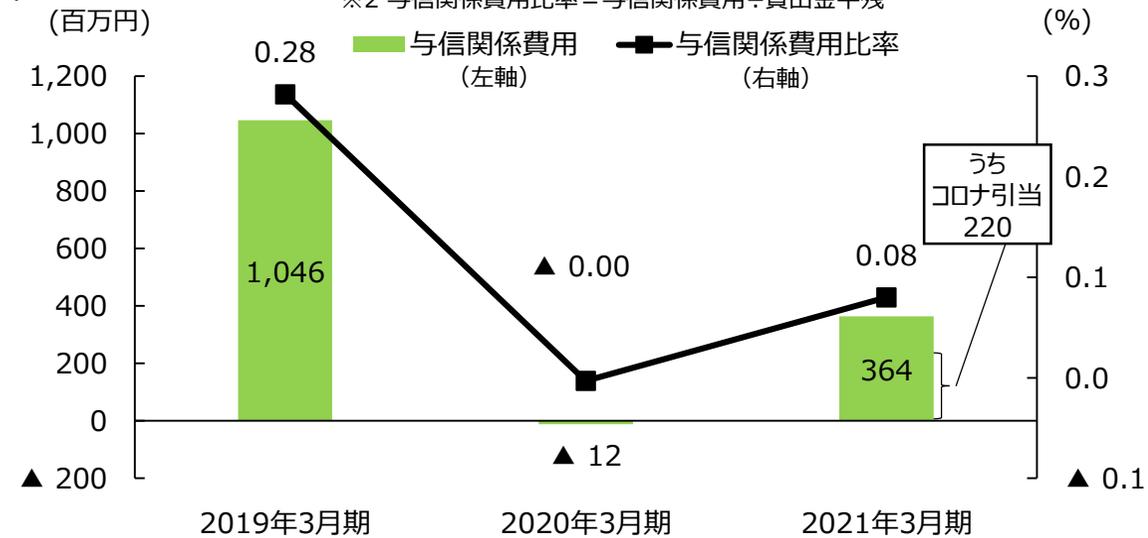
## 経費（除く臨時処理分）・コアOHRの推移 <sup>※1</sup>

※1 コアOHR = 経費 ÷ 業務粗利益（国債等債券関係損益、投信解約損益を除く）



## 与信関係費用・与信関係費用比率の推移 <sup>※2</sup>

※2 与信関係費用比率 = 与信関係費用 ÷ 貸出金平残



## 与信関係費用の内訳

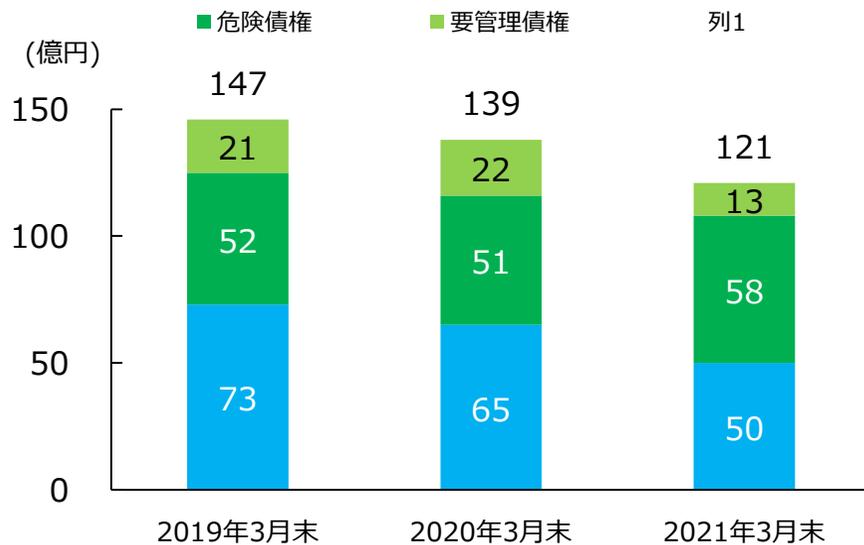
(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期	
		前期比		前期比		前期比
与信関係費用	1,046	730	▲ 12	▲ 1,058	364	376
一般貸倒引当金繰入額	241	403	—	▲ 241	※4 310	310
不良債権処理額 <sup>※3</sup>	805	327	236	▲ 569	53	▲ 183
貸倒引当金戻入益	—	—	249	249	—	▲ 249

※3 不良債権処理額 = 貸出金償却 + 個別貸倒引当金繰入額 + 延滞債権売却損 + 責任共有負担金

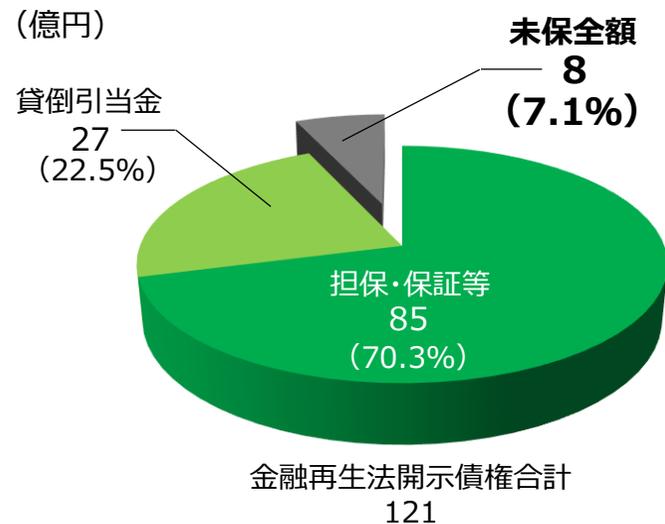
※4 うちコロナ引当220百万円

# 7.金融再生法開示債権・自己資本比率

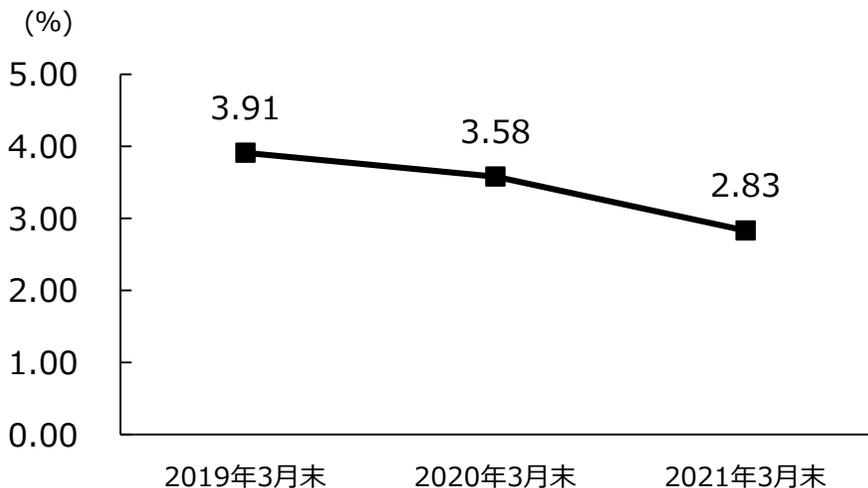
## 金融再生法開示債権の推移



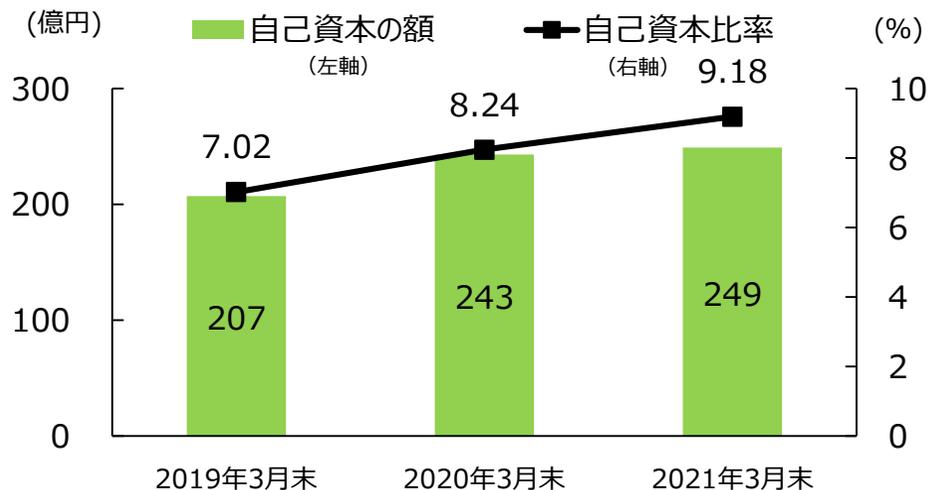
## 金融再生法開示債権の保全状況 (2021年3月末)



## 不良債権比率の推移



## 自己資本・自己資本比率の推移



# 8. Topics1 新型コロナウイルス対応（資金繰り支援）

お取引先の資金繰り支援に積極的に取組み、地域金融機関の使命を果たしました。

## 新型コロナウイルス感染症対応

お客さまおよび役職員の安心・安全のため、さまざまな取組みを行っております。

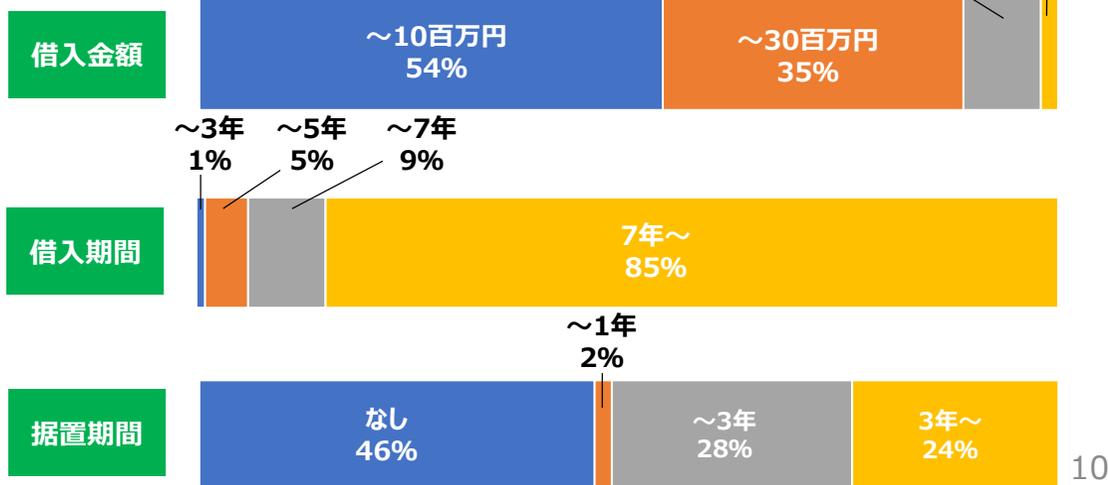
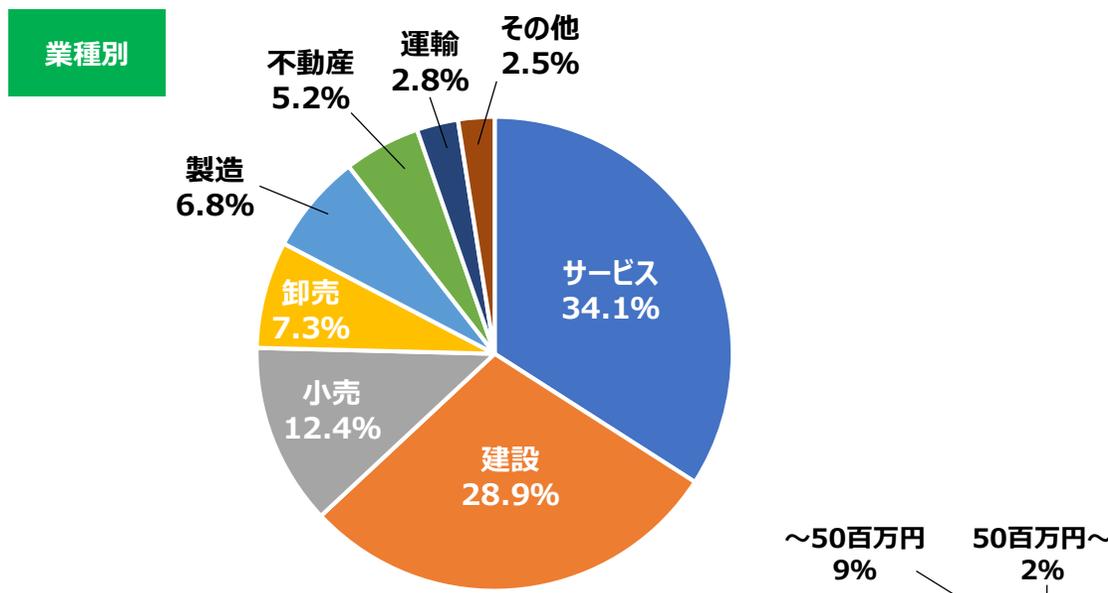


## コロナ関連融資取組状況（2020年度累計）

累計で7,747件、1,272億円実行いたしました。



## コロナ関連融資の詳細（件数割合）

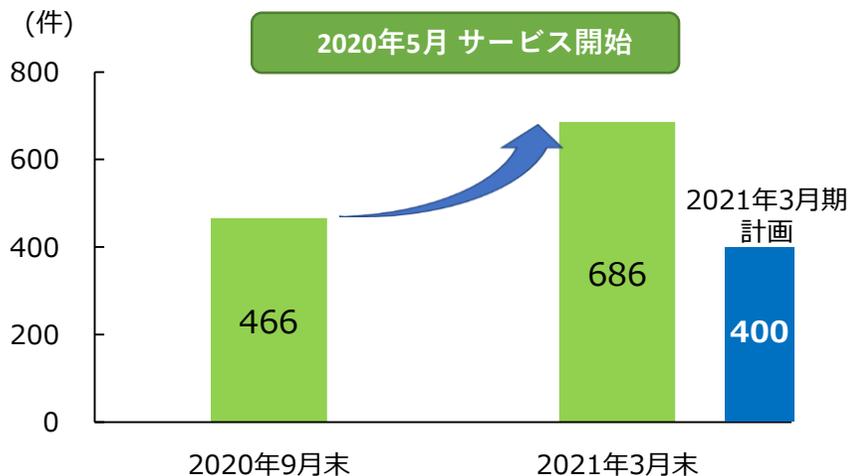


# 9. Topics2 非対面取引の充実

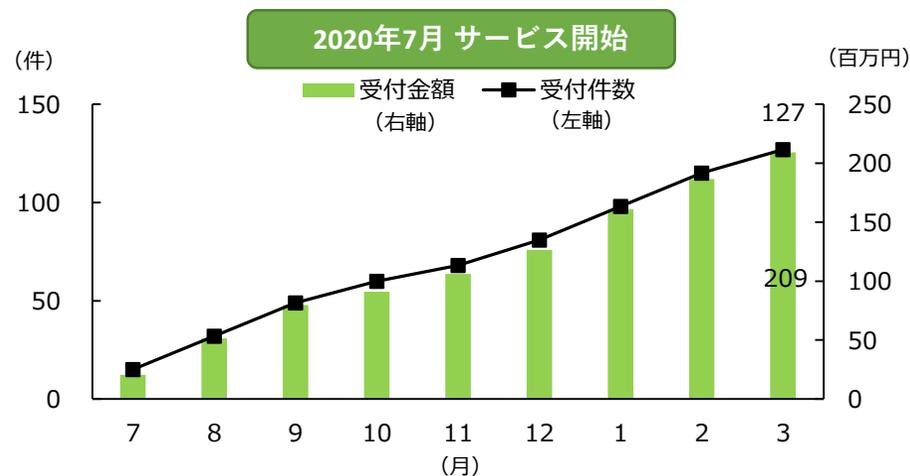
Withコロナ対応として、デジタル技術を活用した非対面チャネルの充実を図りました。

## Fukuoka Big Advance ※ 契約件数の推移

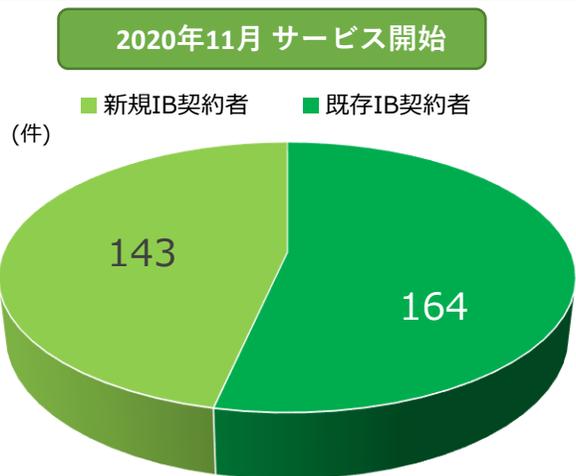
※ Web上で商談可能な経営支援クラウドサービス



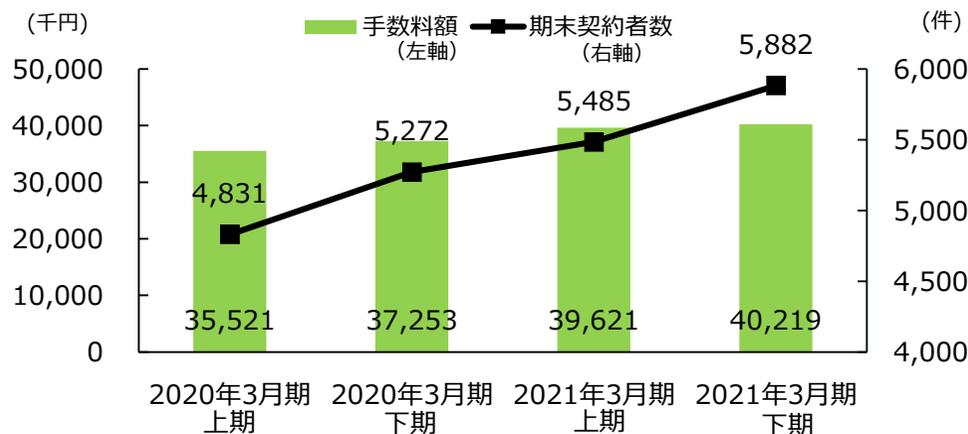
## WEB完結型ローン受付件数 (2020年度累計)



## 個人インターネットバンキング定期預金預入件数



## インターネットバンキング契約件数・手数料の推移



※ 2021年4月インターネットによる申込受付開始



# 2022年3月期 業績予想

# 2022年3月期 業績予想

2022年3月期の業績につきましては、経常利益は6億円、当期純利益は4億円を見込んでおります。  
 新型コロナウイルス感染症による現時点で想定される影響を考慮して予想しておりますが、当該影響を正確に見積ることは困難なため、今後の業績については、公表数値と異なる可能性があります。今後、業績予想の変更が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

(百万円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	前期比
	経常収益	9,875	9,472	9,377	8,600
コア業務粗利益 (除く 投資信託解約損益)	7,786	7,557	7,703	7,512	▲ 191
経費 (除く臨時処理分) (▲)	6,707	6,694	6,599	6,593	▲ 6
コアOHR (%) ※	86.15	88.57	85.67	87.76	2.09
コア業務純益 (除く 投資信託解約損益)	1,078	863	1,103	919	▲ 184
経常利益	790	582	798	600	▲ 198
当期純利益	479	544	519	400	▲ 119

与信関係費用 (▲)	1,046	▲ 12	364	450	86
------------	-------	------	-----	-----	----

※コアOHR = 経費 ÷ 業務粗利益 (国債等債券関係損益、投信解約損益を除く)



# 第12次中期経営計画の概要

# 第12次中期経営計画の概要

名称	<b>BEST !</b> ～ひとりひとりのベストを大きな力に～
計画期間	2021.4.1～2024.3.31
名称に込めた想い	一人ひとりがお客さま、地域の皆さまのために全力を尽くしていきたい 小さな銀行であるが、一人ひとりが常に全力を尽くして大きな力にしていきたいという想いを込めました
経営理念	<b>福岡県内を営業地盤に中小企業専門金融機関としての使命と役割に徹し、地域社会と共に発展する</b>
長期ビジョン	<b>地域になくてはならない銀行</b>



<b>外部環境</b>
景気・金融環境
競争環境
気候変動
技術革新
<b>成長機会</b>
当行の強み
福岡のポテンシャル

<b>基本コンセプト</b>	
顧客本位の営業スタイルの進化	収益基盤の強化
<b>基本戦略</b>	
I 構造改革	◀ SDGsの理念を各施策に反映
II チャネル戦略	
III 人材・組織戦略	

**地域になくてはならない銀行**

地域社会とともに発展し、  
これからも地域になくてはならない銀行  
であり続けたい



# 基本戦略と目標とする経営指標

## ■ 3つの基本戦略、7つの重点施策

基本戦略	重点施策	主な施策の内容
I 構造改革	1. 営業戦略	中小企業専門金融機関ならではのサービスの提供および営業体制の構築
	2. 業務戦略	全行的な業務効率化と生産性の向上
	3. 収益基盤の強化	強固な経営基盤の構築
II チャネル戦略	4. 店舗網の再構築	マーケットの特性を踏まえた店舗網と店舗機能の最適化
	5. 非対面チャネルの拡充	デジタル技術の活用によるサービスレベルの向上
III 人材・組織戦略	6. 人材戦略	専門人材の育成による顧客対応力の向上および適正な人事評価体系の構築
	7. 経営管理強化	リスク管理能力・経営組織力の強化およびコンプライアンス態勢の強化

## ■ 目標とする経営指標

項目		2020年度実績	2023年度 (中計最終年度)
収益性	当期利益	5億円	5億円
健全性	自己資本比率	9.18%	8.5%以上
効率性	コアOHR <sup>※</sup>	85.67%	83%以下

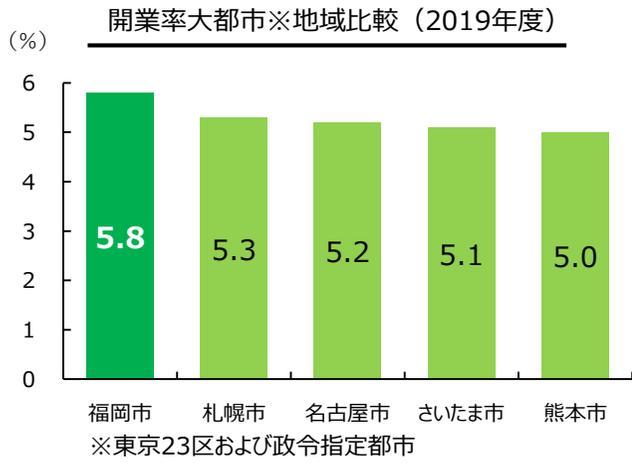
※コアOHR = 経費 ÷ 業務粗利益 (国債等債券関係損益、投信解約損益を除く)

# 参考 福岡経済の位置付けと現状

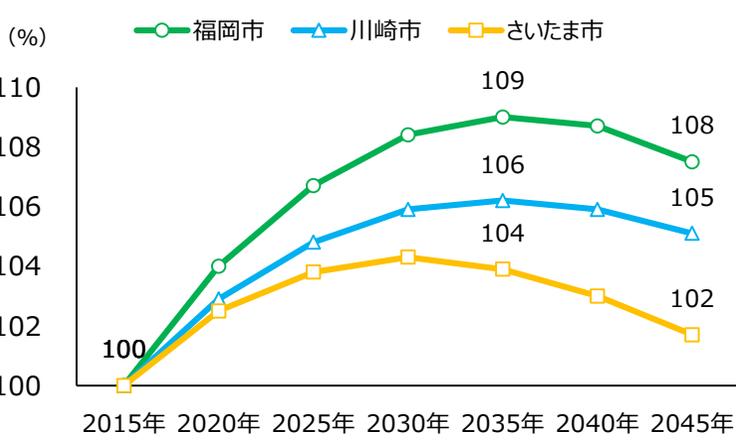
- ▶ アジアの玄関口で九州7県のヒト・モノ・カネの約4割が集中
- ▶ 福岡地区は官公庁、民間企業における九州の管理中枢機能や第三次産業が集積、開業率も高い
- ▶ 北九州地区は、九州で最も高い工業・技術が集積



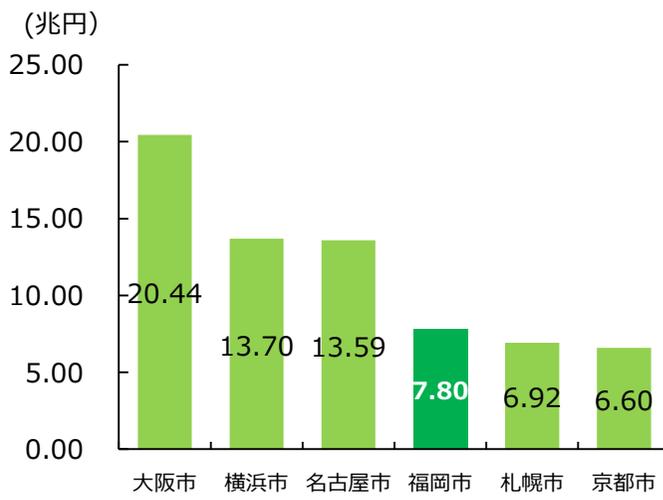
項目 〔カッコ内は 基準年〕	計数	全国		九州7県	
		シェア	順位	シェア	順位
総人口 (2020年)	512万人 (2015年比+0.2%)	4.0%	9位	39.6%	<b>1位</b>
事業所数 (2016年)	212,649事業所	4.0%	8位	37.7%	<b>1位</b>
県内総生産 (2017年)	196,792億円	3.5%	8位	41.8%	<b>1位</b>
就業者数 (2016年)	225万人	3.8%	9位	37.8%	<b>1位</b>



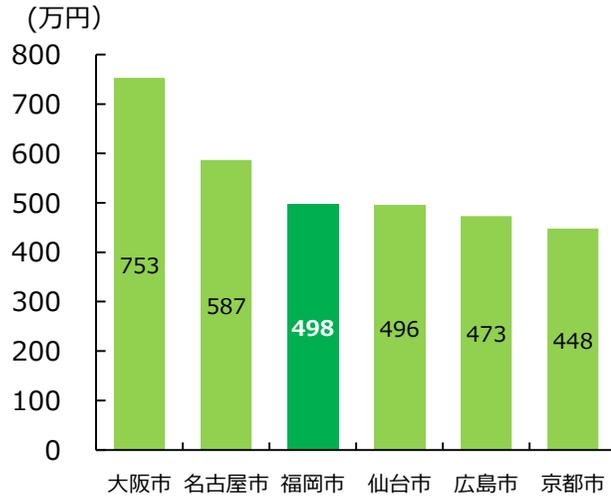
2015年と比較し2035年の人口が多い政令指定都市



2017年度 市内総生産 (名目) の政令指定都市比較



2017年度 市民1人当たりの市内総生産 (名目) の政令指定都市比較



- ▶ 政令指定都市の中でも将来人口 (推計) の伸びがトップ
- ▶ 福岡市は特に若年層の転入超過傾向が続いている

株式会社 福岡中央銀行 総合企画部

TEL : 092-751-4431 (代表) 092-751-4429 (直通)

FAX : 092-751-4469

E-mail : [kikaku03@fukuokachuo-bank.co.jp](mailto:kikaku03@fukuokachuo-bank.co.jp)

URL : <https://www.fukuokachuo-bank.co.jp>

- 本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料の全部または一部を、事前に当行の許可を得ずに、転写・複製し、又は第三者に配付することを禁止いたします。
- 本資料に記載されている将来の業績等につきましては、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。